



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第121号
(隔月刊)

発行：2025. 3.31
(令和7年 3月31日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

NPO 法人ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)
〒090-0036 北見市幸町7丁目4番28号
ピアソン記念館内
Tel. FAX 0157-31-1215
午前9:30～午後4:30
e-mail / pierson@yacht.ocn.ne.jp



会報のバックナンバー等は、左のQRコードホームページで読むことができます。

北海道観光の玄関口として、北海道庁の赤煉瓦庁舎は、年間約60万人を越す訪問者がありました。その施設をさらに北海道観光に役立てるため、リニューアル工事を進めています。いよいよ本年7月26日にリニューアルオープンします。

2階のフロアーの一室には、北海道遺産74展と、日本遺産6展、世界遺産2展の展示コーナーが設けられ、各該当施設の情報発信展

1 道庁赤れんが庁舎のリニューアルについて

道庁赤れんが庁舎について

- 道庁赤れんが庁舎が「北海道の歴史文化・観光情報の発信拠点」として、**令和7年度にリニューアルオープン予定**(リニューアル前：年間来場者約60万人)
- 2階「歴史と文化のフロア」では、道内の世界遺産、北海道遺産及び日本遺産や美術館、博物館等を紹介する部屋ができる



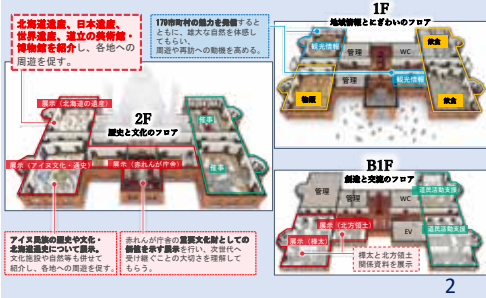
1

本年の7月26日に、北海道赤煉瓦庁舎がリニューアルオープン予定、2階には「北海道遺産」の部屋が設けられ、世界からの訪問者へ北海道観光情報の発信拠点となります。そのコーナーに、ピアソン邸復元模型クラブフトが、北見中央ライオンズクラブ助成で展示されます。

認証60周年記念事業北見中央ライオンズクラブからの助成!

2 リニューアル後の館内イメージ

全体図



2

示物が設置されます。北見への入り口ともなる展示コーナーです。で、昨年より北海道と数回の打ち合わせを行い、ピアソン記念館を紹介するに相応しい展示物を検討してきました。その展示物製作援助を「北見中央ライオンズクラブ」が、本年のクラブ認証60周年記念事業の一環として、応援してくださいました。

10年前は、外国語での音声案内システムの寄贈。さらに記念館開



赤煉瓦で展示の大正時代のピアソン邸

【写真右】3月例会にて寄贈目録を贈呈される。(写真左は中央ライオンズクラブ飯田守会長、写真右はピアソン会中山一夫理事長)



館当時には、門とゲートの設置など、度々記念館への助成をしていただいています。厚く御礼申し上げます。

ピアソン会「総会」の開催案内

- ◎ 開催日時 : 2025年5月31日(土) 午後4時30分より
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館内 北見市幸町7丁目4番28号
- ◎ 参加資格 : 運営会員・賛助会員・団体会員・その他
- ◎ 総会内容 : 2024年度「事業・決算報告」、2025年度「事業・予算(案)」
- ◎ その他 : 詳細につきましてはピアソン会までご連絡ください。電話：31-1215 ピアソン会

『新北見市史』記載 『北光社で薄荷栽培』の誤り？について

野付牛（現北見）の開拓は、明治30年の北光社（土佐の高知からの民間開拓団）と屯田兵制度（国の開拓団）による入植を始まりとする。屯田兵開拓団には3カ年お米の支給。北光社開拓団はその年からお米の心配、水稻栽培が死活問題であり、その水稻試験栽培に全力を投入していた。現在、北光社本部跡地には「北見水田発祥の地」の記念碑が建っている。

ピアソン会理事 玉置義弘

きは其の生産額は四十万円にたつせり。」と書かれてある。

以前から不思議に思っていたのは、昭和32（1957）年6月10日発行の「北見市史」の巻末にある北見発達史（年表）に「明治32（1899）年 北光社本部においてキリスト教伝道師が薄荷二畝歩を試作して蒸留し若干の収穫を見た。当時一組の価格五円二十銭也。」と記述があった事だ。この事はこの年表の記載以前には、私が見る限りどの文献にも書かれてなく、野付牛町の薄荷の作付けについて、大正15（1926）年12月25日発行の『野付牛町史』では、「明治35（1902）年湧別村より薄荷苗を移入して植え付け翌36（1903）年には取卸油一組十円の高値を示ししかも一反歩につき四組以上の収穫あり、加えるに雑穀のごとき搬出費用を要せざる等大に有利なるを以て自家食料作物の他は薄荷を栽培せり。明治44（1911）年のこと

の大西松太郎が薄荷の『はぎ掛け』を工夫したが効果大いにあがりゆえにこれを広く一般に奨励した」とあるので、「明治32（1899）年野付牛で最初に薄荷が栽培された年と見て良い」とあるが、「新北見市史下巻」第七編産業の農業の項では、薄荷導入に関する記述の中で、北光社本部の収穫には触れず、昭和58（1983）年発行の「北見市史」と同様の記述となっており、上巻と下巻の薄荷を最初に栽培した状況に統合性がない。このような事が起こった原因は、執筆者が上巻と下巻で違うことから起こったと思われるが、北光社で栽培したと年表に書かれたのは何故かと推理して見た。

昭和58（1983）年12月1日発行の「北見市史下巻」に書かれた北見地方薄荷栽培の経過では、「野付牛方面栽培の始まりは明治34（1901）年である。この年、兵村一区屯田戸主寒河江直助、兵村二区屯田戸主前田徳五郎、兵村三区屯田家族伊藤長次郎が、各個に上湧別や学田に出掛けて苗根の分譲を受けて自家の畑に移植した。三人共出身は山形県である。山形県はかつて全国的に薄荷生産の代表県である。」と書かれて北光社での栽培には触れられていない。しかし平成31（2019）年9月20日発行の「新北見市史上巻」の『商品作物薄荷の登場』の項には、野付牛村最初の薄荷栽培として、昭和32（1957）年の北見市史の巻末年表の北光社の栽培の件と、同書の明治33（1900）年の項に「この頃広郷

の「遠軽町百年史」によれば『明治32（1899）年4月学田農場に最初に薄荷を取り入れたのは佐竹宗五郎や小山田利七・小山田秀蔵であった』とあり、その結果が良かったので、明治31（1898）年の水害によって壊滅的な被害を受けた農場の復旧対策として、農場監督の信太寿之が薄荷の栽培を奨励した。その事により、学田農場は盛り返しした。信太は東北学院出身であり、後に札幌の北一条教会の牧師になっている。この遠軽の学田農場の薄荷生産の成功談が、後の北光社農場の薄荷試作の話に誤って伝わったと私は考えている。ちなみに北光社で薄荷を作付けた記録は昭和42年3月31日発行の「訓子府町史」に、『訓子府の薄荷は、明治35（1902）年に、北光社に取り寄せた種根の一部を移植したのが始まりで、反収4〜5組（8〜10斤）の収量があり、大正4（1915）年にはその面積340町になり、全耕地の2割を占めるに至った。』とある。

始められ、平成10（1998）年発行の「遠軽町百年史」によれば『明治32（1899）年4月学田農場に最初に薄荷を取り入れたのは佐竹宗五郎や小山田利七・小山田秀蔵であった』とあり、その結果が良かったので、明治31（1898）年の水害によって壊滅的な被害を受けた農場の復旧対策として、農場監督の信太寿之が薄荷の栽培を奨励した。その事により、学田農場は盛り返しした。信太は東北学院出身であり、後に札幌の北一条教会の牧師になっている。この遠軽の学田農場の薄荷生産の成功談が、後の北光社農場の薄荷試作の話に誤って伝わったと私は考えている。ちなみに北光社で薄荷を作付けた記録は昭和42年3月31日発行の「訓子府町史」に、『訓子府の薄荷は、明治35（1902）年に、北光社に取り寄せた種根の一部を移植したのが始まりで、反収4〜5組（8〜10斤）の収量があり、大正4（1915）年にはその面積340町になり、全耕地の2割を占めるに至った。』とある。

明治32（1899）年にはまだ北光社には伝道師は赴任しておらず、明治33（1900）年に初めての礼拝が北光社本部で行われ、明治36（1903）年に橋本宗之進が初めての伝道師として北光社講義所に赴任したので、キリスト教伝道師が明治32（1899）年に薄荷の栽培を試みることはありえないと考えているが、明治32（1899）年とキリスト教伝道師、そして薄荷というキーワードを繋ぐと、遠軽町の学田農場の出来事が見えてくる。遠軽町の開拓も野付牛の北光社農場と同じように、北海道同志教育会のキリスト教徒によって明治30（1897）年に



（了）

次頁3段目※からつづく

の土地を所有していた」との記録があります。これらのことから判断してピアソン邸の土地は、大矢左近からの取得であると判断します。田中竹次郎は、代人としての役割だったのか、あるいは街中の講義所の土地売買であったのかというところに（街中の教会敷地及び幼稚園の土地については次の機会に触れたいと思います）なりません。法務局から取得した土地台帳は、時代時代での地番変更などで、素人の私には中々読み解くことができず、北見市の区画整理などに関わる専門の方に助けていただきました。お礼を申し上げます。

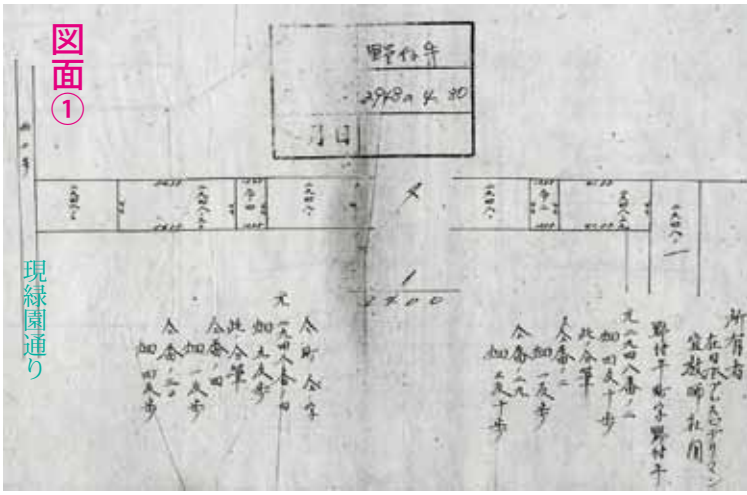
図面①は法務局より取り寄せた図面で、現在のピアソン記念館附近の地番図面ですが、買取のピアソン邸の地番が下の欄に書かれています。ピアソン邸、ピアソン寮、加藤定吉・ちか夫妻の土地などがあります。下の図面②赤枠の中が、現在の土地でのおおよその当時の土地の区分をわかるようにしているものです。薄く緑になっている部分が現在のピアソン記念館とピアソン公園（昭和40年代に区画整理事業により）です。当時とは随分と違った敷地となっています。当時は、緑園通り付近までピアソン通りに沿った敷地であったことがわかります。（伊藤）

ピアノン邸の土地と現在

昨年の9月、関西学院大学建築学部ヴォーリズ研究センター長の角野幸博名誉教授がピアノン記念館を訪問された。ピアノン記念館の建築経過に關する聞き取り調査ということでした。

その後、年が明けてから、その聞き取り調査が、大学の「ヴォーリズ研究紀要」論文の為だとわかり幾分焦ってしまいました。何故なら、ピアノン宣教師夫妻に關する正規の論文が少ない上に、不確かな著述が結構あることから間違つた解釈なども多くあるので、資料提供には苦勞していたからです。中には、国立国会図書館にある資料からの引用でも間違いを見付けることがあり戸惑うことが度々ありました。

書かれた原稿を送っていただき、確認を依頼されましたが、引用の北見の公的資料の中にも、私たちとの解釈の違いからくる不確かな情報があり、「この引用は避けた方が良くと思います」などと、心苦しいお願いをしなければならず、申し訳ない思いでいっぱいでした。



現緑園通り



そんなことから、今までは独自に調査をしていなかった事項の中に、①ピアノン邸の土地取得、②北光社と北見のハッカについて、③北見講義所(後の教会)の土地の取得について、この三点について正式に調査してみようということになりました。

①のピアノン邸の土地取得については、現在で書かれている資料は二点確認できていました。一つは、小池創造著「田舎伝道者」の中に『この土地に法外な値段をつけて売った地主がいた。4000平方メートル(約四反歩)を四百円で売りつけて自慢していたという』と記載されているものと、伊藤公平氏の「田中竹次郎記録メモ」の中に、『明治45年5月8日、ピアノン氏より土地代金手付金15円受け取る(215円売り)』とあります。

昨年4月に、法務局の土地台帳を取得し、北見市の都市計画課の職員に読み解いていただいたところ、土地の買得者は、『在日本プレスビデリアン宣教師社団』(原文のママ)とあり、所有者は、大矢左近とありました。宮良高弘著「訓子府町への旅」の中で、箕島勇氏談として『叔父大矢左近は、ピアノン通り付近から東宝ビル辺りまでの6ヘクタール

前頁下段※へ

驚「ピアノン学事始め」

21

この「ピアノン学事始め」は、22年前に街の情報誌に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(21) ピアソン宣教師と、坂本直寛牧師



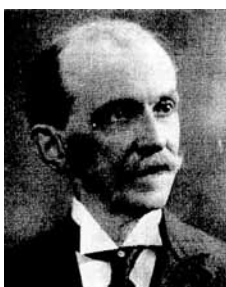
【写真】坂本直寛牧師

前回書きましたように、ピアノンと坂本直寛には、不思議な出会いが運命で約束されていたかのように思えるのです。その運命を導いたのは、ノックス宣教師という人物です。

坂本直寛は、坂本龍馬の甥にあたり、竜馬の意志を継ぎ土佐の高知の県会議員として、自由民権運動を推進していました。また、キリスト教も学び一八八五(明治18)年に高知教会でG・W・ノックス師より最初の洗礼を受けています。共に受洗したのは、後の帝國議會議長片岡健吉や、野付牛で会うことになる西森拙三等でした。このノックス宣教師こそ、ピアノンを日本へ招く大きな役割を果たす人なのです。ノックスは一八八八年春にニューヨーク伝道局で、日本への優秀な神学者派遣を要請し、その任を受ける事となったのがプリンストン神学校の神学生、ピアノンなのです。ノックスはピアノンの伝道に対する情熱を評価し決定したのです。

坂本直寛は、一八八七(明治二十)年、三大事件(納税の軽減、言論・集会の自由、外交政策の改善)を要求する建白運動の総代の一人に選ばれて上京中、公布された「保安条例」違反により捕らえられ、東京石川島監獄に収容されます。そして一八八八(明二)年、ピアノンの来日の年に、明治憲法発布の大赦で出獄します。その獄内での体験が、叔父竜馬が果たせなかつた北海道拓殖を実現する動機となるのです。この年は、偶然にもピアノンと直寛の出発の年であつたのです。

【写真右】ジョージ・ウィリアム・ノックス(George William Knox, 1853年8月11日-1912年4月25日)は、米国長老教会から派遣された、明治時代のアメリカ人宣教師である。ナックスとも表記される。明治学院・東京大学・慶應義塾大学等で積極的に高知伝道を展開した片岡健吉、坂本直寛等がノックスから洗礼を受けた。



「ニュージーランドからの便り」第50回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2025.2.24 (月)

◆真冬の寒さにもかかわらず、北

見の皆様方にはお変わりありませんように。ファンガヌイ(南部)

へ戻っています。ここはとても暑い

です。今月は、雨がほとんど降らなかつたので、地面はとても乾燥

しています。池の水は全くありません。

◆果樹園で、スモモ(暗紫色のダムソン)が見えたのは嬉しいこと

◆お変わりないことと思います。今朝、果樹園でバケツいっぱい分のマルメロと5杯分の梨を収穫しました。土曜日にファンガヌイ(自宅)へ持ち帰ります。

◆先日、オークランド博物館勤務

のマーレイ(弟)に会いに行きました。モアやキウイの陳列室で写真

真を撮りました。興味があると良いのですが。

◆お元気で。グラハム・ハード

れ、オークランドへ持ち帰って、身内に分けるつもりです。今年

りんごはほんの少ししかないけれど、梨は良い具合で、大きいのは、

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。

マルメロ同様、持ち帰ります。



睡ふあっしゅん・睡けあ

めがねのよっしー

代表 岩井敏忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯. 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

2025 年度会費納入のお願い

- ① 運営会員 (会費 5,000 円) ② 賛助会員 (会費 3,000 円) ③ 団体会員 (会費 10,000 円)
- 郵便振替の場合：振替用紙で窓口手続きは 203 円、ATM 振込では 152 円です。郵貯銀行間の場合：本人口座よりピアソン口座へは、110 円で振込できます。記号 / 19910 番号 / 9509351 口座名：特定非営利活動法人ピアソン会 他行から、普通預金【口座番号】9509351【店名】九九八 で、本人銀行手数料。
- 北見信金振込は：北見信用金庫本店営業部から ATM での扱いで、同一本店内無料。特定非営利活動法人ピアソン会、普通口座番号 / 1018723 他支店からは 110 円。
- 北海道労働金庫北見支店：同一支店内無料。他支店からは 110 円。特定非営利活動法人ピアソン会、普通預金口座番号 / 1035638 ※ピアソン会(ピアソン記念館)へ直接納付も可能。手数料はかかりません!



編集後記

いよいよ新年度となります。何かもが値上がりし、また全国のお米が相当量行方不明?で品不足からくる値上げ、政府の備蓄米の放出、何か昔歴史で勉強した米騒動が起きるのでは?などと思ったりもします。

北海道での令和6年水稲収穫量は、農水省統計で49万5千5百トン(主食用)。現代人の1年間の米消費量は約58キログラムのようなので、北海道で穫れたお米は約8百54万人の1年間の消費量ということになります。現在の北海道の人口は約5百10万人ですので、十分な量なのですが、全国の人々の分も担っているわけですから品薄高値になることも我慢しなければならぬでしょう。江戸時代でいえば、現在の北海道は3百30万石の大大名(加賀百万石以上)になります。

こんな北海道ですが明治期の開拓時代は、水稲栽培を成功させることが死活問題でした。北見の北光社開拓団も入植以降前田駒次を中心に水稲の試験栽培に四苦八苦していました。屯田兵は5年間お米の支給が官費で保証されていましたが、民間の開拓団は自前でお米を得なければなりません。薄荷栽培どころではなかつたのです。北光社本部跡地に「北見水田発祥の地」の記念碑があります。前田駒次の苦勞が偲ばれます。

今回このようなことから、お米について玉置理事と雑談していて、北見市史に「北光社本部で薄荷栽培試作」との記述が復活していることを知りました。一度間違いで市史の記録から削除されていたものが何故?という思いです。

(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟